

## <企画展> 霧島 火山の噴火と生きものたち

2011年1月26日、霧島・新燃岳が大規模な噴火をしました。大量の噴出物はその後の27日の噴火と合わせて約7千万トンにもなり、1959年(昭和34年)の噴火の約9倍に相当します。この後も活動は続き、2月には大きな噴石が3kmを越える地点まで到達したり、空振によってホテルや学校の窓ガラスが割れたりするなどの被害が出ました。



新燃岳の噴火(2011年1月26日)  
撮影:成尾英仁氏

噴火から1年後の火山灰堆積厚の調査では、噴出物が火口から南東側に約10kmの地点でも5cm以上の厚さで降り積もっていることがわかりました。火山灰や火山ガスなどの噴出物は自然環境に大きな影響を与え、アカマツなどの植物が枯死しました。植生の変化は

それらを利用している動物たちにも大きな影響を与えたと考えられます。火山活動との密接な関わりをもつ霧島の自然は破壊と再生の繰り返しです。鹿児島県の県花であるミヤマキリシマは噴火の影響で枯れ枝が多く見られましたが、時間の経過とともに地際付近から多くの萌芽が見られるようになりました。噴火から5年が経った今、霧島の自然はどのようになったのでしょうか。

県立博物館では、3月19日～6月12日まで企画展「霧島 火山の噴火と生きものたち」を開催します。火山活動によって作られた雄大で美しい景観とそこで育まれた多種多様な生きものたち、火山と共生する地域の人々の取り組みなどを紹介します。



新燃岳 2015年9月12日撮影

## フィールドワーカー養成講座を開催して

「子供たちに自然のおもしろさを紹介したい。自分をもっと自然の不思議や鹿児島の自然の奥深さを知りたい。」

博物館では、自然体験が不足している今の子供や県民を支援したいと思う教員等を対象にした講座を、平成18年度から開催しています。

講座は地質、植物、昆虫、動物、天文の5つの分野で野外の現地研修を時機に応じて計画的に行っており、各分野の専門的研修を5回、校庭や学校周辺の自然を観察・調査する総合分野の研修を1回組んでいます。

今年度は総合分野の研修を鹿児島市立犬迫小学校で8月19日に行いました。



川の生き物調査

校庭のイチョウやサクラなど実物を手にして、葉の特徴や植えられる場所によって成長が異なることを観察しました。

また、学校の隣を流れるきれいな小川に入ってモクズガニやドジョウ、カワムツなどを捕まえました。実際に捕まえることで動物の生態がよくわかります。

学校の近くの道路周辺ではブナやマンサクなどの落葉樹の化石を採掘しました。現在の鹿児島では1,000m以上の標高に生える植物です。地球の歴史を伝える素材がこんなに身近なところにもありました。

理科室ではチョウやガの体のつくりを、実体顕微鏡などを使ってじっくりと観察しました。身近なところで自然の不思議やおもしろさを伝える素材を発見できました。

2月には講座参加者の総括をするまとめの会を開催し、各分野の担当学芸主事から「鹿児島の自然はおもしろい」をテーマにした発表が行われ、博物館と学校、参加者とのさらなるネットワークが深まりました。

この講座は平成28年度も実施しますので、積極的な参加をお待ちしています。